

地域に生き世界に伸びる 総合診療医養成事業

超高齢社会を切り拓くリーダー型高度医療人養成

各コースのご案内・募集概要

未来医療研究人材養成拠点形成事業(文部科学省事業)

阪大Aコース

高齢者医療卒前
教育コース



阪大Bコース

医工連携型
高齢者在宅介護
医療モジュール開発
のための医師・研究者
養成コース



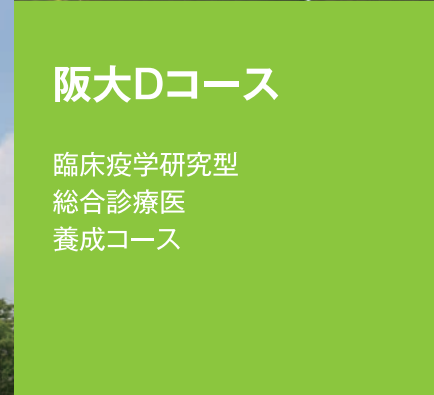
阪大Cコース

スーパー在宅医
養成コース



阪大Dコース

臨床疫学研究型
総合診療医
養成コース



阪大Eコース

リーダー型総合診療医
養成コース



阪大Fコース

地域密着型総合診療医
養成コース
(インテンシブコース)

F1：総合診療医養成コース
F2：専門スキルアップコース





目次

事業推進責任者 挨拶	2
コース責任者の紹介	2
募集コース	3
募集対象	3
各コースの紹介	
●阪大Aコース： 高齢者医療卒前教育コース	4
●阪大Bコース： 医工連携型高齢者在宅介護医療モジュール開発 のための医師・研究者養成コース	5
●阪大Cコース： スーパー在宅医養成コース	7
●阪大Dコース： 臨床疫学研究型総合診療医養成コース	9
●阪大Eコース： リーダー型総合診療医養成コース	11
●阪大Fコース： 地域密着型総合診療医養成コース(インテンシブコース)	13
募集要項	裏表紙

ご挨拶



「地域に生き世界に伸びる 総合診療医養成事業」を推進する

事業推進責任者 樂木 宏実
(老年・総合内科学講座 教授、総合診療部 部長)

新しいことにチャレンジし、解決していこうとする人材の育成において大学が中心になることのメリットは何か、具体的にどのようなカリキュラムが必要で、育成された人材はどこでどのような形でその成果を生かすのかまで想像しながら作成されたプログラムが阪大プログラムです。

教育の対象は学部学生・研修医から実地医家まで幅広く設定しました。それぞれに目標も違いますが、総合的に培うべき力は、超高齢社会の更なる進展に合わせて医療・福祉・社会医学の観点から問題を抽出できる力、解決するための方策を立案できる力、実際の応用にまで研究として取り組める力です。力を発揮する場所は、もちろん学びの場である大阪の地域がそのひとつで、職種は在宅医、診療所医師、勤務医、大学の医師・研究者と様々でしょう。さらには、総合大学としての大阪大学の力を発揮して老年学全般や千里と類似の世界のニュータウンの高齢化問題への挑戦も大学での教育を経た実践の場となるでしょう。受講生の方々には、是非「地域に生き世界に伸びる」を実感して頂きたいと思います。今後とも、地域、日本、世界で超高齢社会を切り拓く医療人たりうる総合診療医を育てるべく関係者一丸となって事業推進に邁進して参ります。

コース 責任者の ご紹介



Aコース責任者 和佐 勝史

大阪大学医学部 医学科教育センター長 教授
大阪大学医学部附属病院 卒後教育開発センター長



Bコース責任者 山下 静也

大阪大学大学院医学系研究科 総合地域医療学 特任教授
りんくう総合医療センター 病院長



C・D・E・Fコース責任者 樂木 宏実

大阪大学大学院医学系研究科 老年・総合内科学 教授
大阪大学医学部附属病院 副病院長



阪大Aコース

高齢者医療卒前教育コース



阪大Bコース

医工連携型高齢者在宅介護医療モジュール開発のための医師・研究者養成コース



阪大Cコース

スーパー在宅医養成コース



阪大Dコース

臨床疫学研究型総合診療医養成コース



阪大Eコース

リーダー型総合診療医養成コース



阪大Fコース

地域密着型総合診療医養成コース(インテンシブコース)
F1:総合診療医養成コース
F2:専門スキルアップコース

募集 コース

○:受講可能 ●:オブザーバーでの参加のみ可能

下記以外の方で受講を希望される医療関係者の方は事務局まで御相談ください。

学内の方								
コース	医学科 1~3年	医学科 4~6年	初期 研修医	後期 研修医	大学院 生	非常勤 医員	研究生	大学院 修了者
A	○※1	○						
B		○		○	○	○	○	○
C				○	○	○	○	○
D	●	●	○	○	○	○	○	○
E					○			○
F	F1			○	○	○	○	○
	F2	○	○	○	○	○	○	○

学外の方									
コース	医学科 1~3年	医学科 4~6年	初期 研修医	後期 研修医	大学院 生	非常勤 医員	研究生	大学院 修了者	勤務医 開業医
B	●	●	●	●	●	●	●	●	●
D	●	●	○	○	○	○	○	○	○
F	F1			○	○	○	○	○	○
	F2	○	○	○	○	○	○	○	○

※1 平成25年度は医学科3年のみ、平成26年度は医学科1・3年のみが対象。



阪大Aコース 高齢者医療卒前教育コース

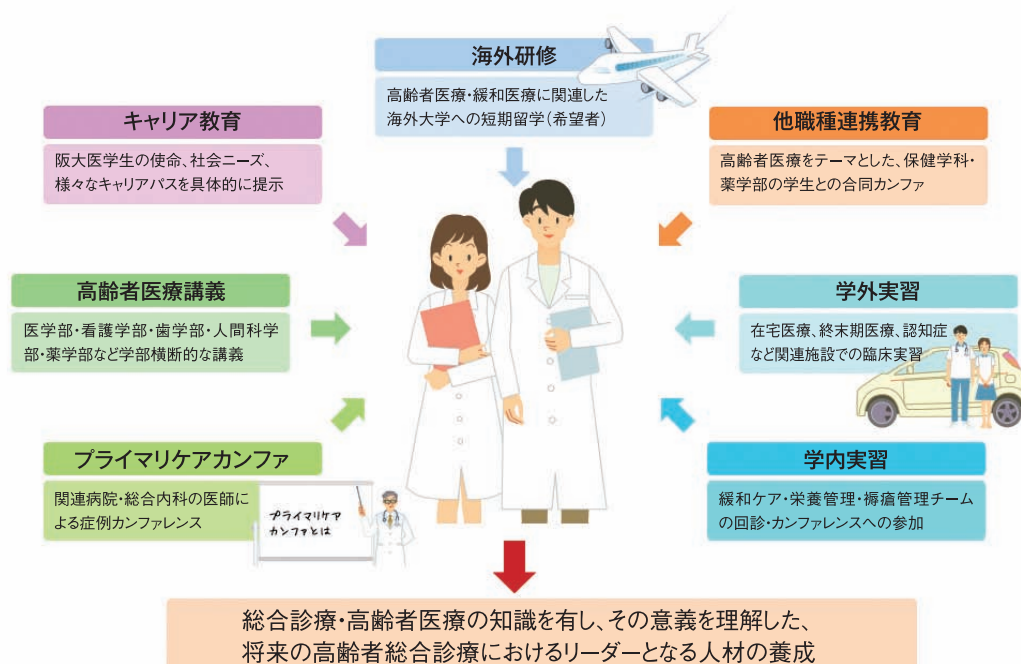
すべての医学生に対して基礎教育のレベルアップを図るとともに、総合診療の意義と社会的役割、超高齢社会における社会医療の問題点、男女協働における課題と対策について理解できる人材、自身のキャリア形成の計画概要を立案でき、グローバルに活躍するためのコミュニケーション能力を持つ人材を養成することを目的として開講いたしました。

対象者： 医学部医学科1～6年の医学生（平成26年度までは1・2年生、平成27年度は2年生が対象外）

修業年限： 1年（学年毎）

- 概要：**
- 学内外より講師を招いて毎月定例で症例カンファを実施しています。
 - 高度医療の見学体験、患者とのコミュニケーション体験、多職種連携教育などのキャリア教育を行います。
 - 高齢社会における医療倫理、終末期医療、生命倫理などについて学びます。
 - 基礎医学講座配属により、高齢者医療をテーマとした疫学調査や介入研究・高齢者に対する地域ケアシステムなどを学びます。
 - 老年内科学、総合診療の講義を行います。
 - 環境医学・公衆衛生学実習では高齢者医療をテーマとした調査・研究コースを設けています。
 - 臨床医学特論の講義の中で、痛みとその治療や漢方医学、全人的統合医療、地域医療医の役割、キャリア教育などについて学びます。
 - 栄養管理チーム、薬剤部チームの業務に参加して、多職種連携を学ぶ実習を行います。
 - 淀川キリスト教病院で終末期医療を学ぶ学外臨床実習を行います。
 - 選択実習期間中に、希望者に対して海外実習の機会を設け、家庭医療や緩和医療などを学ぶ機会を提供します。

阪大Aコース：高齢者医療卒前教育コース





阪大Bコース

医工連携型高齢者在宅介護医療モジュール

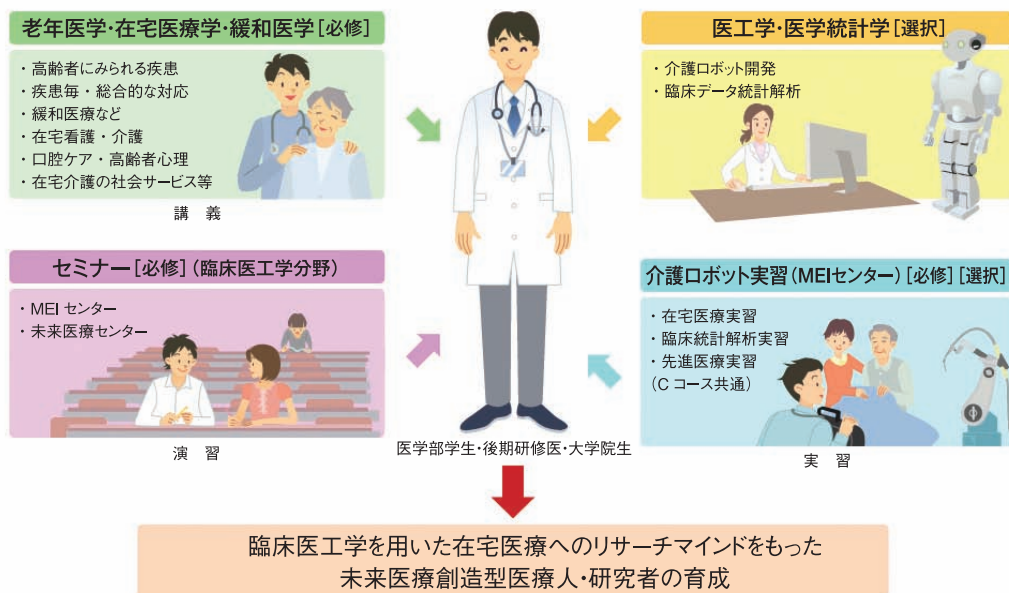
日本は少子高齢化社会が進み医療介護の環境も大きく変化しています。本コースは、臨床医工学を用いた在宅医療へのリサーチマインドを持った医学生、大学院生、医師を養成し、将来的に高齢者の在宅介護医療に目を向けた医師や研究者を育成することを目標として開講いたしました。

対象者： 医学部生(医学科4~6年)、後期研修医、大学院生、非常勤医員、研究生、大学院修了者

修業年限： 1~2年

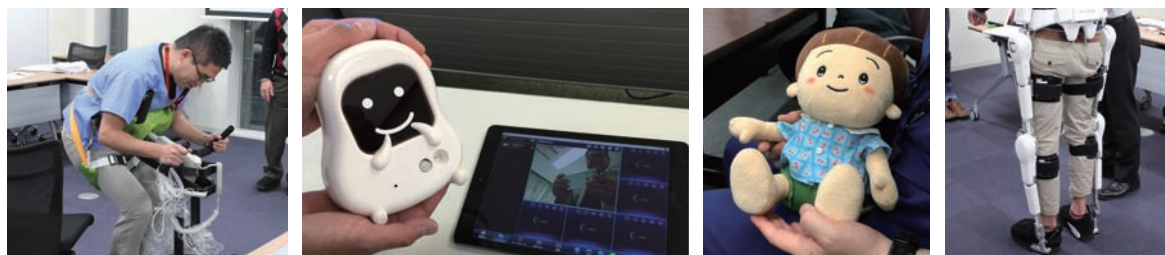
- 概要：**
- e-ラーニング講義による老年医学・在宅医療学・緩和医学の講義から本コースに適した講義を選択し聴講して頂きます。
 - 国際医工情報センター(以下、「MEIセンター」)や未来医療開発部へのセミナーに参加できます。
 - 介護ロボットが体験できる実習を行っています。
 - 臨床医工学に関する講義や医学統計専門家による講義も受講可能です。
 - 在宅医療・緩和ケア診療実習や臨床統計疫学寄附講座の包括的な実習、総合地域医療学寄附講座・MEIセンターにて開発中のシーズに関する研究などにも参加することができます。

阪大Bコース：医工連携型高齢者在宅介護医療モジュール 開発のための医師・研究者養成コース



ジュール開発のための医師・研究者養成コース

コースの 風景



受講の メリット

- 大阪大学には国内最先端の研究を行う大阪大学国際医工情報センター（MEIセンター）や革新的新規医療技術の実用化開発を推進する未来医療センターが既に存在しており、本コースではその研究内容を直接体験することが可能です。
- 高齢者介護の問題点を把握した上でさらに臨床医工学的な演習・実習を行うことにより
 - ▶介護・看護の肉体的精神的な負担を軽減させる実際の例を経験できます。
 - ▶新たなシステムのアイデアを考えリサーチマインドを養え、医工連携におけるノウハウを開発側受け手側それぞれの立場で学べます。
 - ▶臨床研究に必要な背景因子の確認・研究方法の策定・研究に必要な手続き・研究の実施の実際・データの管理および統計解析の実施などが学べ、リサーチを進める上で必要な知識を系統的に習得できます。
- 受講生の状況に応じて1～2年間の修業期間を選べます。
- 実習は、受講生の希望により、教員と相談して受講スケジュールを決めることが出来ます。
- 医工連携開発型総合医のコースを修了した修了証を発行します。



教員より



高齢者の在宅介護医療に目を向けた医師や研究者を育成したい!

Bコース担当:特任助教 増田 大作

初めまして、Bコース担当教官の増田です。

ロボットも介護も「どうすれば最良か?」について結論は出ていません。

これからどうすればよいかを一緒に考えましょう!



受講生からのコメント



在宅医療・ロボット工学に興味がある人に、ぜひ受講を勧めたい!

Bコース受講生:医学部4年生時に参加 銭谷 成剛 (H26年度受講)

ロボット実習をはじめとした多彩な内容となっていて、貴重な体験をさせていただいております。

医学のみならず、歯学・介護・都市計画・統計学など分野横断的に学べるのはとてもありがたいです。



阪大Cコース スーパー在宅医養成コース

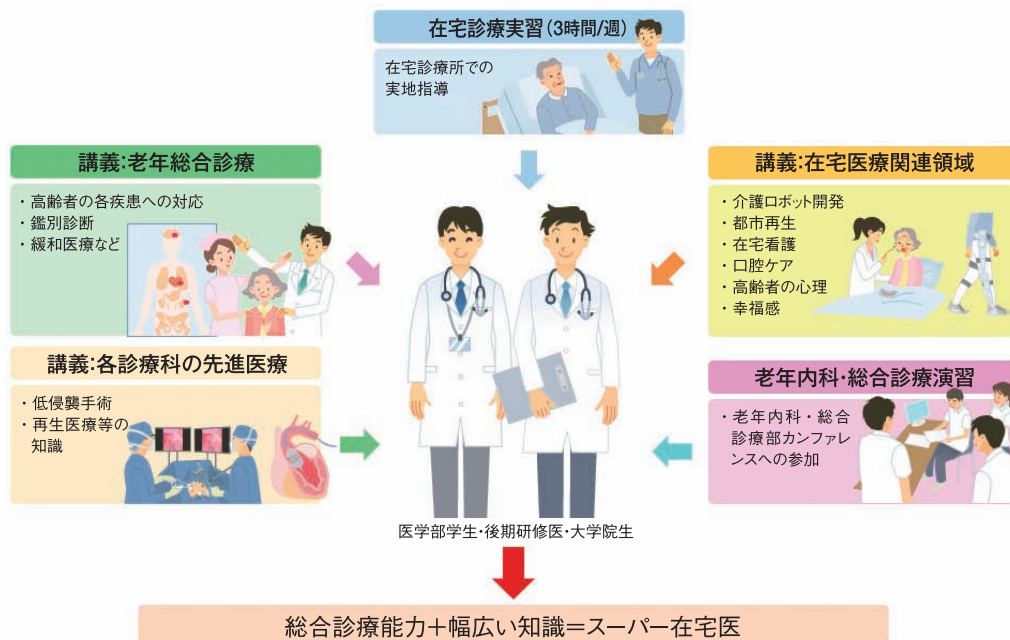
在宅医療に関連する豊富な実地臨床、最先端の医療から社会学まで幅広い老年学教育によって、超高齢社会の地域における問題を提示でき、リサーチマインドを持ってその問題解決に取り組める能力を有し、地域在宅医療推進のリーダーとなれる人材を養成するコースです。

対象者： 後期研修医、大学院生、非常勤医員、研究生、大学院修了者など

修業年限： 1～4年(受講生の身分による、講義や演習の履修と実習期間は離れてもよい)

- 概要：**
- eラーニング講義からお好きな講義を選択し受講できます。
 - 老年内科や総合診療部のカンファレンスに参加して頂きます。
 - 指定の在宅診療所での実習に参加して頂きます。
 - 市中病院(介護施設含む)における見学を含めた実習に参加することも可能です。
 - 総合診療・老年医学・在宅医療に関する論文(査読あり)を修了要件としています。

阪大Cコース：スーパー在宅医養成コース



コースの 特徴

- 特徴1: 多くの受講生は大阪大学老年・総合内科の大学院に所属しながら在宅診療を勉強しています。
- 特徴2: 在宅診療実習では、指導医のサポートを受けながら往診医として患者さんに対応します。
- 特徴3: 在宅医に必要とされる他職種連携、終末期医療などについて実地医療を通じて学びます。
- 特徴4: 老年内科・総合診療部のカンファレンスを通じて臨床推論や高齢者総合機能評価について学びます。
- 特徴5: 大学院に所属した場合には、指導教官の下に論文を作成し大阪大学大学院の博士号を取得します。
- 特徴6: 大学院に所属した場合、1年目は週1回の在宅診療実習をしながら老年内科の病棟医としても勤務します。2年目以降は大学院生として在宅診療を学びながら、臨床もしくは基礎研究のどちらかを経験できます。

受講の メリット

- 大阪大学の大学院生として受講した場合、在宅診療を学びながら大阪大学の医学博士を取得できます。
- 指導医のもと往診医として責任ある立場で診療を行うことで、在宅医として必要なスキルを学べます。
- eラーニング講義により、いつでもどこでも各種診療科の講師による各種テーマの講義を受講出来ます。
- 老年内科カンファレンスを通じて高齢者を総合的にとらえマネジメントする視点を養えます。
- 受講生の状況に応じて1～4年間の修業期間を選べます。
- 2年目以降の大学院生活では、在宅診療・外来勤務などで臨床力を維持しつつ、臨床研究もしくは基礎研究を行いますので、緊急呼び出しの無い、時間を自由にマネジメントする生活を送ることができます。



教員より



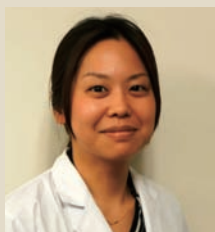
少しでも興味をもった方は、是非とも御連絡をください!

Cコース担当:特任助教 小黒 亮輔

これまでの受講生は皆さん大学院に所属して在宅診療を経験して頂いています。毎週、担当医として在宅患者さんを往診するだけでなく、多くの指導医が出席する老年内科カンファレンスに出席することで高齢者医療に関する幅広い知識も得られます。また大学院に所属した場合、2年目以降は在宅診療や外来診療に携わりつつ臨床研究もしくは基礎研究を行いますが、研究を通じて得ることのできる分析力や思考力は後の臨床にも役立つと思います。また、研究を行う2～3年は比較的自由に時間をマネジメントすることが出来るので非常に貴重かつ有意義な期間になると思います。興味を持った方は、是非とも御連絡ください。ここでは伝えきれない詳しい内容&魅力をお話させて頂きます。



受講生からのコメント



在宅医療&高齢者医療に興味があれば、ぜひ受講してください!

Cコース受講生:老年・総合内科学 横山 世理奈(平成25年度受講開始)

在宅診療実習は、指導医(在宅医)は非常に熱意ある先生で、これまでに貴重な経験を沢山させて頂きました。自分の担当患者さんを定期的に往診する事で、一時的な見学や短期間の実習では得ることのできない在宅医としての経験を積むことが出来ると思います。また大学院生として生活は、臨床医としての勤務を続けながら、研究を通じて自分の疑問を解決する思考や方法を学ぶことができるだけでなく、自由な時間もありますのでおすすめです。



阪大Dコース 臨床疫学研究型総合診療医養成

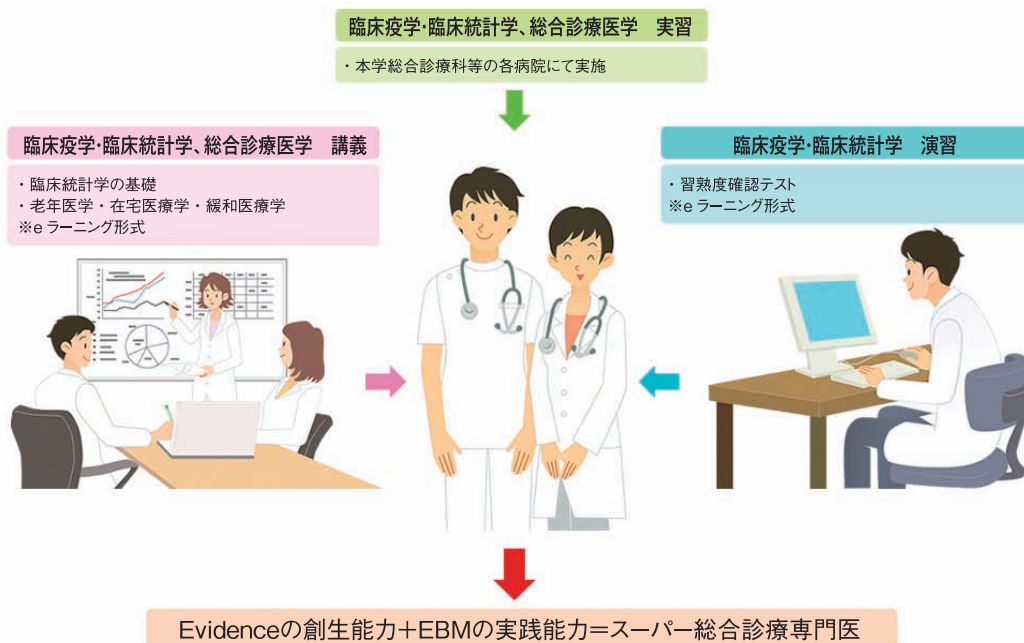
超高齢化社会において、全人的医療を行う上でエビデンスが存在するものは1～2割に過ぎません。疾患や生活機能低下に関連する因子を解析することや無作為化比較試験などの介入試験にてエビデンスを創生できる総合診療医の養成を目的としたコースです。

対象者： 初期研修医、後期研修医、大学院生、非常勤医員、研究生、大学院修了者、勤務医・開業医

修業年限： 1～5年

- 概要：**
- 臨床疫学・臨床統計学の講義ならびに演習をeラーニング形式にて受講して頂きます。
 - eラーニング講義システムの老年医学・在宅医療学・緩和医学の講義から、本コースに適した講義を選択し、受講して頂きます。
 - 臨床疫学・臨床統計学を習熟した先生の指導が受けられます。
 - 総合診療医学につながる実習を、勤務状況の変更なく本学総合診療科やその他の関連の病院にて実施します。

阪大Dコース：臨床疫学研究型総合診療医養成コース



コース

コースの特徴

- 特徴 1: 臨床研究に際して必要となるような臨床統計学の基本的な内容を勉強できます。
- 特徴 2: エビデンスを創生していく能力を身につけることができます。
- 特徴 3: 全ての講義・演習がeラーニングを活用して受講出来ます。
- 特徴 4: 現状の臨床現場を離れずに履修可能です。

受講のメリット

- eラーニングはインターネット環境があれば、いつ何処に居ても受講できます。
- eラーニング講義はセクションごとに分かれていますので、自分の時間が空いた時に少しずつ進むことができます。
- 臨床現場では身につけることが難しい統計学的テクニックを基本から学ぶことができます。



教員より



エビデンスを使う側から作る側へ!

Dコース担当:助教 中神 太志

皆さんは『総合診療医』と聞いてどのような医師をイメージしますか?

- ①地域のクリニックや診療所にいる医師?
- ②小中規模の病院で一般内科、もしくは総合内科で働いている医師?
- ③臨床研修病院で教育を担当している医師?
- ④大規模病院で総合内科医として働いている医師?
- ⑤Dr.コトー?

今日では、個人の経験に基づいたexperience based medicineではなく、evidenceに基づいたEBMが必要とされています。しかし、今後は、上記のうち、特に③、④の医師(ひょっとしたら⑤も)は、そのevidenceを使うだけでなく、作る能力が求められるようになる、と考えられています。

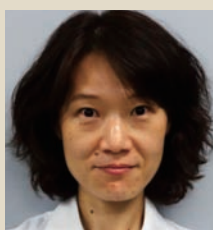
『インフルエンザにタミフルって必要?』、『めまいに重炭酸って、どうなの?』、『OAIにヒアルロン酸?』、『C型肝炎にグリチルリチン?』、『何故、患者さんは退院前夜に転倒するのか?』、『自分が当直の時に限って、急性薬物中毒が来るのは何故だ?』、などなど、日常の臨床現場での素朴な疑問、違和感、怒りは、新たなEvidenceのseedsです。

ご興味のある方、質問のある方は、ご連絡ください。

これからどうすればよいかを一緒に考えましょう!



受講生からのコメント

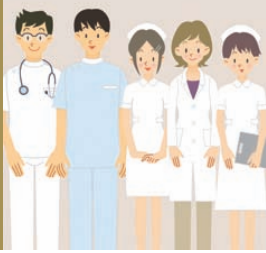


臨床統計を使いこなそう

Dコース担当:助教 栗波 仁美

症例も集まったし、データをまとめてみたいな、と思ったときに、たいていの人は統計学的解析で悩むのではないかと思います。

このコースでは、統計の基礎から実際に臨床研究に必要な解析方法まで気軽に学ぶことができるように工夫をこらした講義を展開しています。



阪大Eコース リーダー型総合診療医養成コース

多職種連携型の高齢者コHORT研究への参加および、最先端の医療から社会学まで高齢者医療に関連する幅広い教育を通じて超高齢社会における医学的問題に対して総合診療的観点から研究を行い、チーム医療に際して他職種のプロフェッショナリズムを理解できる地域医療のリーダーとなる総合診療医を養成するコースです。

対象者： 大学院生、大学院修了者

修業年限： 1~4年(受講生の身分による、講義の履修と実習期間は離れてもよい)

- 概要：**
- eラーニング講義からお好きな講義を選択し受講できます。
 - 関西健康長寿研究(SONIC研究)に参加し、老年医学等に関する成果発表を行います。
 - 市中病院(介護施設含む)における見学を含めた実習に参加することも可能です。
 - 所属大学院の卒業要件単位の履修を修了要件とします(既に博士号取得の者は不要)。

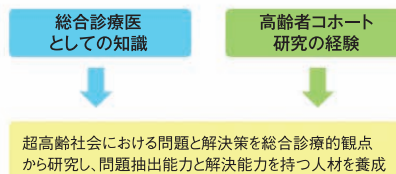
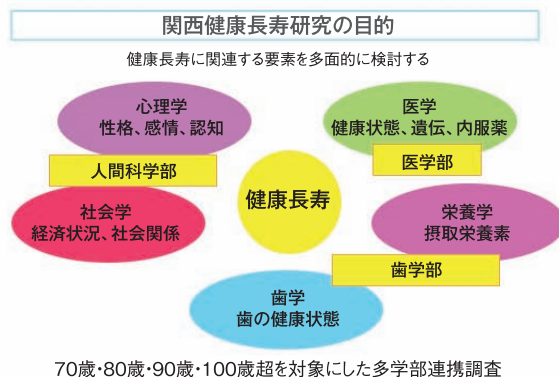
阪大Eコース：リーダー型総合診療医養成コース

講義(10講義)

在宅医・総合診療医としての知識習得
阪大Cコースの老年医学・在宅医療学・緩和医療学講義のうち、
老年医学・在宅医療学関連の講義を単位数分履修

実習(30時間)老年医学実習:

多職種連携の実地調査・実地臨床
関西健康長寿研究(SONIC研究)に参加し、レポート提出と研究成果発表をおこなう。市中病院老年内科・在宅医療機関などで実習。



コースの 特徴

- 特徴1: 地域高齢者のコホート研究は医学科、保健学科、歯学科、人間科学科の合同研究であり、調査を通じてチーム医療に重要な他職種の視点・考え方や業務を理解することが出来ます。
- 特徴2: 多くの受講生は大阪大学老年・総合内科の大学院に所属しながらコホート研究に参加しています。
- 特徴3: コホート調査の豊富なデータを用いて博士論文を作成する事で、大阪大学大学院の博士号を取得します。
- 特徴4: 大阪大学各診療科によるe-ラーニングで、高齢者医療に関する多領域のトピックスを学べます。
- 特徴5: 大学院生の場合、1年目は老年内科の病棟医として高齢者医療を学びつつ、コホート調査に参加します。2年目以降は大学院生としてコホート調査・研究を行いながら、外来業務などで高齢者臨床に携わります。

受講の メリット

- 大阪大学の大学院生として受講した場合、コホート調査のデータで大阪大学の博士(医学)を取得できます。
- コホート調査のデータは豊富であり、様々な視点から研究を行うことが可能です。
- eラーニング講義により、いつでもどこでも各種診療科の講師による各種テーマの講義を受講出来ます。
- 老年内科カンファレンスを通じて高齢者を総合的にとらえマネジメントする視点を養えます。
- 大阪大学老年・総合内科の大学院生として臨床を続けることで老年病専門医が取得できます。
- 2年目以降の大学院生活では、主に外来勤務などで臨床力を維持しつつ、臨床研究(希望すれば基礎研究も可能)を行いますので、緊急呼び出しの無い、時間を自由にマネジメントする生活を送ることができます。



教員より



少しでも興味をもった方は、是非とも御連絡をください!

Eコース担当:特任助教 小黒 亮輔

関西長寿研究(SONIC)研究は高齢者の健康長寿に関する因子を明らかにすべく、保健学科、歯学部、人間科学部と合同で行っている住民調査で、70歳、80歳、90歳の高齢者約500人を3年ごとに追跡しています。70歳、80歳については既に2回目の調査も修了していますので縦断研究を行う為のデータも蓄積されており、みなさんが興味を持った視点から研究を行い、博士論文を作成する事が可能です。多くの受講生は大学院生として研究を行いつつ、外来や病棟診療に携わり、老年内科カンファレンスでは指導医のもと高齢者を総合的にマネジメントする視点を養っています。長い医師生活の中で、大学院生として研究を行う生活は、きっとみなさんの貴重な経験になると思いますので、興味を持った方は、話を聞くだけでも良いので是非とも御連絡を下さい。ここでは伝えきれない魅力をお伝えしますよ!



受講生からのコメント



高齢者医療や臨床研究に興味があれば、ぜひ受講してください!

Eコース受講生:老年・総合内科学 平尾 聡美(平成26年度受講開始)

平成26年度より大阪大学老年内科の大学院生として受講しています。大学院1年目は附属病院の老年高血圧内科で病棟担当医として勤務しながら関西長寿研究に参加していました。平成27年度からは毎週月曜日のカンファレンスに参加したり、関連病院の外来勤務をする以外は、研究に携わる生活を送っています。住民調査は週末に行われますので、平日は昨年度に収集したデータをまとめたり、夏以降に開始される今年度の調査の準備をしています。大学院生としての時間は比較的自由がききますので、興味のある事について勉強をする時間が十分にとれるのはもちろん、趣味活動などの時間も取ることが出来るので楽しい毎日を送っています。



阪大Fコース 地域密着型総合診療医養成コース

F1:総合診療医養成コース

地域で活躍している医師を対象に、高齢者でみられる疾患だけでなく緩和医療、先進医療、介護ロボットなど幅広い視点からの教育を提供することにより、総合診療医としての実地診療のスキル獲得、高齢者医療への精通、実習参加による独自のスキル発展を目指します。修了要件を設定し、修了証を発行するコースです。

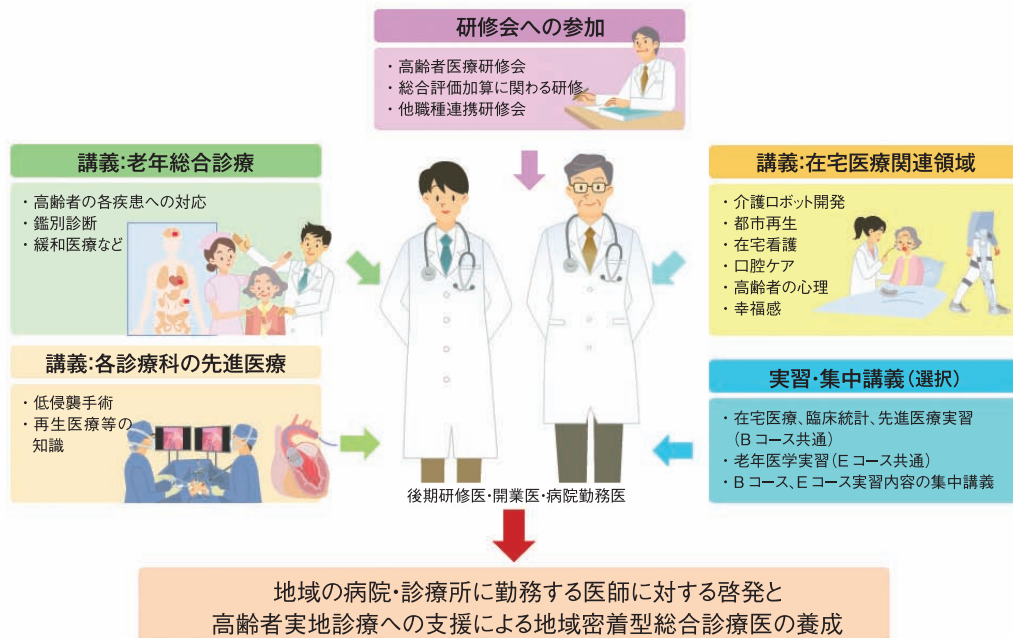
対象者： 医師（診療所・病院・保健所・行政勤務の医師、その他医療関係施設勤務の医師）、後期研修医

修業年限： 1～2年（講義・演習の履修と実習期間は離れてもよい）

- 概要：**
- eラーニング講義システムからお好きな講義を選択して、受講できます。
 - 下記のいずれかの研修会を受講して頂きます（既に受講を終了している場合は 修了証の提出のみ）。
 - a.日本老年医学会主催「高齢者医療研修会」または全日本病院協会主催「総合評価加算に関わる研修」
 - b.在宅医療推進のための地域における「多職種連携研修会」
 - c.大阪大学で上記a.b.に相当する研修会を開催することも予定
 - eラーニング講義のみではなく、介護ロボットや老年医学に関連した集中講義や実習を受講できます。

阪大Fコース：地域密着型総合診療医養成コース

総合診療医養成コース (F1コース)

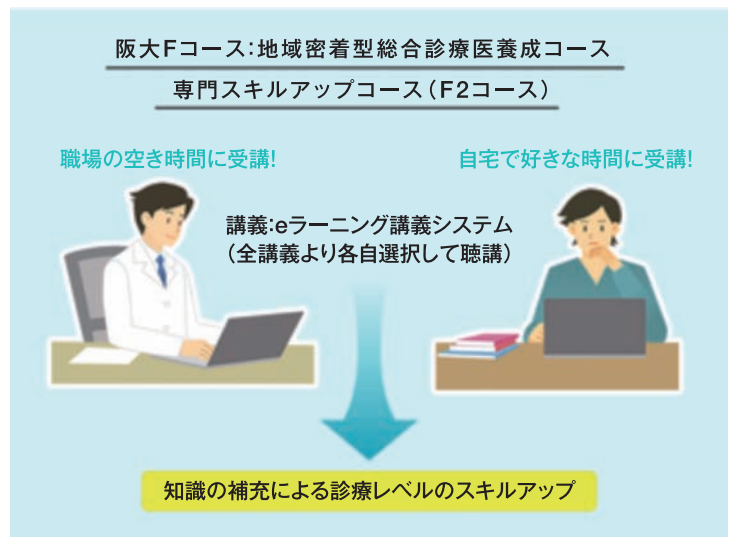




阪大Fコース 地域密着型総合診療医養成コース F2:専門スキルアップコース

医学部医学科生、初期研修医、後期研修医、既に専門医をお持ちの先生、医師会所属の先生などで、総合診療や老年医学に関する知識を補充することによりご自身の診療レベルのスキルアップを目指すコースです。公開されているeラーニング講義を自由に選択いただき、御都合の良い時間に聴講して頂けます。修了要件はありません。

対象者： 医学部医学科生、初期研修医、後期研修医、大学院生、研究生、大学院修了者、医師（診療所・病院・保健所・行政勤務の医師、その他医療関係施設勤務の医師



F1・F2 コース 受講の メリット

- eラーニング講義により、大阪大学医学部附属病院各診療科の講師による各種テーマの講義を受講出来ます。
- eラーニング講義は、いつでも都合の良い時に、好きなテーマだけをピックアップして聴講できます。
- 大阪大学で行われている介護ロボット研究や老年医学コホート調査の実習に参加することで、現在行われている高齢者医療に関連した研究に触れることが出来ます (F1コース)。
- 受講生の状況に応じて1～2年間の修業期間を選べます (F1コース)。
- 実習は、受講生の希望により、教員と相談して受講スケジュールを決めることが出来ます (F1コース)。
- 地域密着型総合診療医養成コースを修了した修了証を発行します (F1コース)。
- F2コースから実習・演習のあるF1コースへの移行も可能です。



教員より



是非、e-ラーニングをご視聴ください!

Fコース担当:特任助教 小黒 亮輔

本プログラムの中核をなすe-ラーニングは、大阪大学医学部附属病院の多くの診療科が参加して作成した講義システムです。プライマリケアで頻度の高い疾患の知識から、現在行われている先進医療の情報、在宅医療や介護ロボットなど、現在の高齢者医療を取り巻く様々なトピックを取りそろえています。日常診療の合間に、御都合の良い時に必要に応じてご視聴いただけますので、是非ともFコースに御登録ください!!



募集要項

資格	医師または医学生
受付	随時
受講開始時期	申請書を事務局が受理したのち
申込み方法(流れ)	<p>1.メールにて、以下の内容にて事務局までご連絡ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宛先(事務局) : mirai-iryuu@ml.office.osaka-u.ac.jp ●件名: 総合診療医養成事業 阪大○コース受講希望 ●内容: ①お名前(フリガナ含む) <ul style="list-style-type: none"> ②所属(勤務先・所属部署、学校名・専攻等) ③住所(ご自宅) ④電話番号 ⑤メールアドレス(PCメール受信可能なもの) ⑥受講を希望するコース名 ⑦その他(質問、希望する事項等) <p>2.事務局または各コースの教員よりご連絡いたします。 相互にやりとりし、お互いに希望が合致して受講可ということになりましたら、事務局へ申請書をご提出頂きます。</p>

受講申請書様式 事業ホームページからダウンロードしていただけます
URL: <http://osku.jp/j098>

事務局・お問合せ

大阪大学未来医療研究人材養成拠点形成事業 事務局
(医学部附属病院卒後教育開発センター内)
住所 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号
TEL 06-6879-5054 FAX 06-6879-5047
MAIL mirai-iryuu@ml.office.osaka-u.ac.jp
URL <http://osku.jp/j098>



事業HP



Facebook